

Economic Monitor

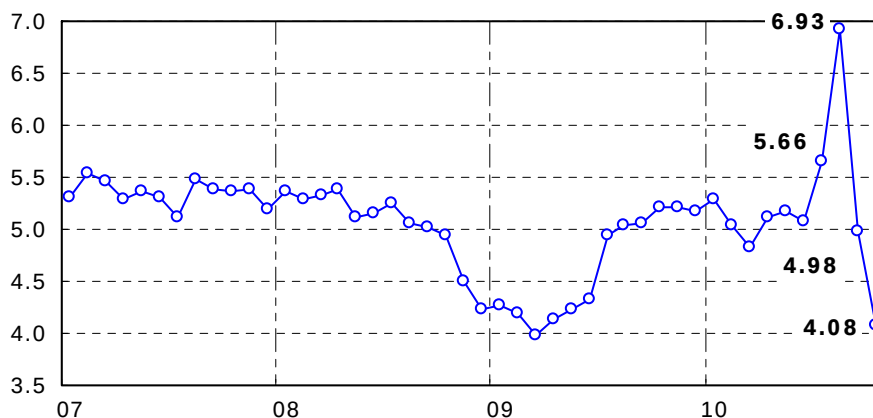
10月の新車販売台数は前年比2割減と落ち込みが本格化

10月の新車販売台数は前年比▲23.2%（9月▲1.2%）の30.4万台となり、2ヶ月連続で前年実績を割り込み、かつ減少幅が大きく拡大した。当社試算の季節調整値では前月比▲18.1%の年率408万台（9月498万台）と辛うじて400万台の大台を維持したが、金融危機で大きく落ち込んだ2009年3月の398万台以来の低水準である。また、エコカー補助金の駆け込み需要で膨れ上がった今年8月の693万台を41%も下回っている。9月7日でエコカー補助金が終了したことに伴う反動減が、いよいよ本格化してきたと判断できるだろう。

当社は10～12月期の販売台数を390万台程度と想定したが、10月実績の408万台は当社想定を5%程度上回った。但し、10月の販売実績には、エコカー補助金の適用を見込んだ8月までの高水準の受注残が未だ反映されている。報道等で伝えられる10月の低調な受注や消費マインドの悪化などを踏まえると、11月以降の販売台数が更に減少し、当社想定に接近する可能性は否定できないだろう。ちなみに当社想定通りであれば10～12月期の販売台数は前期比▲33.5%、10月実績の408万台が11・12月と継続しても▲30.4%と大幅に落ち込む。

エコカー補助金やたばこ増税などの特殊要因が重なり、7～9月期の個人消費は大幅な増加が見込まれる（当社予想は前期比1.6%）。しかし、10～12月期にはその反動減が避けられない。当社では新車販売の減少だけで、10～12月期の個人消費を前期比0.9%Pt程度押し下げると予想している（当社想定通りならば▲0.92%Pt、10月の販売実績が継続すれば▲0.83%Pt）。

新車販売台数(百万台、季節調整済、年率)



(出所) 自販連、全軽自協